

●尾根筋ハイキングコース年末清掃 12月4日

2005年にセブンイレブンの助成金50万円を得て生産した竹炭を利用して普賢寺川の最上流部に水質浄化装置の設置と、尾根筋ハイキングコースの設置竹が実現できました。そのおり高船区からハイキングコース設置に関わって、年末にはコースの清掃を里山の会が実施することで理解するとの約束で、これまで年末に実行してきました。昨年参加された皆さんから押し詰まってからではなく時期を考慮せよとの要望があり、高船区長の了解を得て実施日を12月最初の日曜日に変更して実行されました。このコースには測量に必要な三角点が三点とも確認できるポイントがあるのですが、これまで最後のポイント（通称吹き上げといわれている場所）には到達するには道が険しくなかなか到達できていませんでしたが、今年は三点とも踏破できました。事務局では高齢化が進み体力の後退もあって、コース利用者の皆さんに整備や充実へのお手伝いを呼びかけようではないかとの意見が出されました。

●京都大学宇治川オープンラボラトリー 竹蛇籠製作講習会

12月3日に13/18本まで製作出来ました。残り5本の製作のところまで到達出来ました。11月18、19日が中止となったときは年内に竹蛇籠が完成できるのだろうかという日程の面からと、製作会場が非常に交通の便が悪く協力者が来てくれるのかが問題でした。呼びかけを再強化しましたけれども思うように応援が得られず、ほとんど里山の会のスタッフのみの作業となりました。続く中聖牛の組み立ては、多くの人手が必要になるので、できるだけ多くの方々に協力を得られるように取り組みたいと考えています。何はともあれ残り5本を編み上げると一応終了となります。播川 太田 森島 福井 有田さんなど中心を担っていただいた皆さんご苦労様でした。あと少しですので頑張ってください。

●静岡県行き 柿田川でアユの産卵場見学

富士山の湧水とふじのくにミュージアム視察

今年の3月ごろから静岡の柿田川のアユの産卵が昼間から観察できること、そしてふじのくにミュージアム建設の取り組み視察が提起されてきました。わざわざ静岡にまで出かけなくともとの声がありましたが、実際に訪れてみると富士山からの湧水の規模の大きさにおどろきました。また水温が15度から16度と年中変化しない事、それがアユの産卵に大きな影響を及ぼしていることなどを実感しました。70年ほど前の雨が吹き上がっていて歴史的に浄化されて入る事にも驚かされました。またふじのくにミュージアム実現への取り組みも永年粘

り強く行われ、可能なことからはじめられていることに感銘を受け、京都でも参考になることが沢山学べました。大いに生かしたいものです。例えば、2tトラックを使用しての「出前博物館」や「移動ミュージアム」などの取り組みに熱意を感じました。丹後地方では兵庫県の「人と自然の博物館」が京都府に出かけてくれていることもわかりました。京都府南部地域ではこういった



取り組みは全く行われていませんので、学ばなければならない事ですし、里山の会の地域説明会の開催のような取り組みではないでしょうか。



●同志社大学サッカー部のボランティア 周遊通路開通に お昼食提供に心を砕く 33名の参加連絡あり

昨年の活動で里山農園の急傾斜の丸山の一斉除草を実行していただき、その後丸山の傾斜地の平坦化が進められ、除草作業が平易に行えて、里山農園全体の除草作業に取り組みだすことになって、手入れが行えるようになりました。今年は一昔前には台所のみがき砂として現金収入が得られた白土採取跡が洞穴として残されたところまでの通路を周遊通路として散策路を整備しようとして、ガイドロープを敷設するところまで進めることができます。それで通路幅に拡幅する作業を助力いただけないかとお願いしています。去年は雨中の中での作業でしたが、今年は今のところ晴天の予想ですので作業は大きく前進するのではないだろうかと予想しています。午前10時集合で作業開始となりますので、2日間2回の昼ご飯の提供のために6人のお母さん方をお願いをしています。これまで多くの作業の昼食を経験してきておられますので、これまでにないおいしい食事が用意されると思います。9、10日と2日間にわたっての作業ですので、工夫が活かされるのではないかと思います。一般の方のボランティア活動にこぞってご参加をお願いします。お手元に鎌やノコギリ等山仕事用の道具をお持ちでしたらご持参お願いします。また体だけでもお願いします。持ち出しや運び出しなど通路づくりですのでその場所の整備作業が主力となりますので大歓迎いたします。ぜひお手伝い気分でお越しください。場所は普賢寺小学校から生駒方面へ普賢寺川に沿って800mのところの東側で 白土山の横断幕を掲げています。また駐車場もあります。終了時間は16時を予定していますが、自由な参加方式ですのでお越しください。

●冬の昆虫観察会実施 12月18日 参加者募集

指導は元近畿大学教授・桜谷保之先生が名古屋市から来ていただきます。先生は国蝶オオムラサキや絶滅寸前種のヤマト(カスミ) サンショウウオの発見や普賢寺の谷の希少植物や昆虫の調査研究観察の指導をいただいていた先生です。参加費は無料で行い、先着13組です。参加申し込みは里山の会のホームページ内専用の申し込みフォームをお願いします。(住所・氏名・電話・年齢＝必須) 小学生以下の方は保護者が同伴ください。集合場所は里山農園(京田辺市普賢寺水取・普賢寺小学校前から800m 打田方面へ(近鉄三山木駅から9:30頃 バスあり) 問い合わせは山村(090-7100-3295) まで 主催はNPO やましろ里山の会(0774-64-4183) です。

●小川芳也さんの松江通信 No.10

今週は、お話に戻ります。アシナヅチ・テナヅチからクシナダヒメとの結婚の了承を得た須佐之男命は、クシナダヒメを櫛(くし)に変えて自分の髪にさしました。そして、「すごく強いお酒を造りなさい。また、周囲に垣をめぐらし、その垣に八つの門を作り、その門ごとに一つずつ台をおき、その台の上に桶をおいて、作ったお酒をいっぱい入れて待っていなさい。」と言いました。二人は仰せつけられたままに準備をして待っていると、八岐大蛇が本当に言ったとおりに現れました。酒の匂いに誘われた八岐大蛇は、すぐさま八つの頭をそれぞれの桶に入れお酒を飲み、酔いつぶれて眠ってしまいました。須佐之男命は身に帯びていた剣で八岐大蛇を切り散らし、肥の川(斐伊川)の流れは血に染まりました。そして、中ほどの尾を割いた時に刃が欠けたので不思議

議に思い切り開いてみると、都牟刈の大刀（ツムカリノタチ）が出てきました。これは不思議なことだと思い、この大刀を天照大神に献上しました。これが草薙の剣（クサナギノツルギ）です。この続きは次回に・・・

●太田敏之さんの「小笠原旅行の概要」No. 1

11月26日から12月1日までの6日間、一人で小笠原の父島と母島に行ってきました。小笠原は東京から南1000キロメートル離れており、週一回のおがさわら丸という船で片道24時間かかるので、実際は3日半くらいの滞在でした。今回、特に何かを見たいとか、何かをしたいとかという目的はなく、行くこと自体が目的でした。ですから、何をしようかな、何を見ようかなという、全く気ままな夢のような6日間でした。

小笠原は一度も大陸と地続きになったことがないため、独自の進化をとげた多くの固有種の動植物がいる世界自然遺産の島です。ですから島固有の動植物と、外から持ち込まれた外来種のせめぎ合いが続いています。国の特別天然記念物が2、天然記念物は20以上あり、あちこちで数多くの天然記念物を見ることができます。島に生えている植物の36%、昆虫類の28%、陸産貝類の94%が固有種といわれ、絶滅危惧動植物がたくさんあります。2011年に世界自然遺産に登録されるまでは若者が海遊びをするだけの島でしたが、世界遺産登録後は年配者の来島が非常に増えたそうです。